

湯沢南中家庭部 学校祭で販売へ 下処理も丁寧に

## サクランボ収穫 スイーツに活用



湯沢市の湯沢南中学校（高橋清隆校長）家庭部の3年生9人が17日、同市上関でサクランボの収穫を行った。収穫したサクランボは、学校祭などの学校行事で販売するスイーツに使用する。

スイーツの商品化は、学校の卒業生らでつくる「南中応援団」の団員から商品として販売できないサクランボを活用してほしいと提案されたことから始まった。2019年から試作を始め、学校祭で販売したり、地域の福祉施設に届けたりしてきた。23年には焼き菓子のブッセを考案し販売。生徒による収穫は24年から行っている。



17日は、応援団の藤山詩朗さんのサクランボ園で品種「高砂」を収穫した。部員らは、台座に上り腕を伸ばしながら丁寧に摘んだ。



本年度収穫したサクランボは29.1キロ。18日には、調理室で部員16人が指やストローを使って

種を抜いた。サクランボは、菓子製造販売の「くらた」（同市）がジャムに加工し、学校祭で販売するパンナコッタやブッセに使用する。

家庭部長の吉澤和音さんは「サクランボの収穫は貴重な体験と同時に楽しさも感じる。湯沢の特産物でできたスイーツを味わってもらいたい」と話した。（板橋美羽）

（令和8年6月21日(日)秋田魁新聞より一部抜粋）